

第73回 通常総会 藏内会長挨拶

公益社団法人 日本獣医師会

会長 藏内 勇夫



第73回 公益社団法人 日本獣医師会の総会に当たり、日本獣医師会を代表し、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、全国の地方会の皆様方には、多忙な中、また、足元の悪い中にもかかわらず、多数ご出席をいただき、誠にありがとうございます。また、日頃から日本獣医師会の活動に大変なご理解とご支援を賜っておりますことに対し、この場をお借りし、心から厚くお礼を申し上げる次第です。

本日は、公務多忙な中、ご来賓として多くの皆様方にご出席をいただき、誠にありがとうございます。われわれは本日の日程を1年前に決定しておりましたが、ちょうど、参議院選挙の公示日と重なってしまいました。そのような事情にもかかわらず、自由民主党獣医師問題議員連盟の麻生太郎会長の名代として森

英介幹事長、公明党獣医師問題議員懇話会幹事長の高木美智代先生、民進党を代表して衆議院議員の玉木雄一郎先生に駆けつけていただきました。

さらに、関係省庁から、農林水産省消費・安全局長の今城健晴様、環境省自然環境局長の亀澤玲治様、厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部長の北島智子様、文部科学省高等教育局長の常盤 豊様、そして、日本医師会から小森 貴常任理事にご出席をいただいております。

また、この他多くの関係者の方々にご出席を賜ることができました。日頃の私ども日本獣医師会に対するご支援に重ねて厚くお礼を申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、わが国では、災害がいつ発生してもおかしくない、と言われております。しかし、先般、熊本で発生した大震災は、予期せぬ出来事でごございました。現地に深い爪跡を残し、多くの方が犠牲になり、未だに多くの方が被災生活を余儀なくされております。

お亡くなりになりました皆様方に心からご冥福をお祈りし、被災された皆様方にお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を期待いたしているところです。

私ども日本獣医師会も本震が発生した4月16日に、熊本地震救護緊急対策本部を立ち上げまして、地方獣医師会の皆様方からもご協力をいただき、義援金等の支援をいたしました。この経緯につきましては、日本獣医師会雑誌、あるいはホームページで記載をいたしておりますので、ご一読いただければ幸いです。

われわれは、東日本大震災の際、そして、今回の九州の熊本、大分の大地震も同様ですが、広域災害が発生した際、1つの県での対応は困難であり、広域的な救援活動が重要であることを理解いたしました。そこで、国内の各ブロックに1カ所ずつ災害時のための動物救援センターを設置する必要があるとして、まず、九州地区獣医師会連合会の支援により、九州災害時動物救援センターを設置する取組みを進めておりました。

これは大分県九重町の元九州電力のキャンプ場の一部をお借りし、来年の4月を目途に一般社団法人九州動物福祉協会が管理、運営する、常設の動物救援センターを開設するという計画であり、3月には、地元大分県獣医師会の麻生会長と大分県の広瀬知事が同席のもと本センターでの救護活動を盛り込んだ防災救援協定を締結、発表したところです。

ところが、その1カ月後に熊本で大震災が発生いたしました。

環境省はじめ、さまざまな機関の要請に基づき、来春の開設を前倒しして、6月5日に一部を開設し、すでに熊本で被災したペットを収容しているところです。

実は、この4月16日の本震、そしてその2日前の14日の前震が起きた際、私は阿蘇山の隣の九重山におりまして、大変恐ろしい経験をいたしました。「山鳴り」という言葉のとおり、地震の発生前に「ゴォーッ」とい

う、地鳴りに似た大きな山鳴りが伝わってきました。そして、それが止むと同時に「ドーン」という爆発音が聞こえ、その直後にガタガタと揺れが始まりました。後にマグニチュード7と知りましたが、屋内では立ってられず、いつ屋根が崩落するか、建物が倒壊するか、という大きな揺れの中で、やっとの思いで外に飛び出しました。外にある大きな木々は、風速30～40mの台風のように揺れており、とても恐ろしい光景を目にしつつ駐車場にある車へ逃げ込み、朝まで約30回もの揺れとともに過ごしました。このようにいつ発生するのか分からない災害に対し、常日頃からの備えが命運を左右するものと痛感いたしました次第です。

東日本大震災、熊本地震の教訓を得、日本獣医師会としては、今後とも、どのような状況下にあってもわが国でペットとの楽しい生活が営めるよう、このような施設の整備に努めたいと思っております。

また、本日は自衛隊の皆様方にご出席をいただいております。ひとたび災害が発生すると自衛隊の方々は身を挺して、人命救助に全力を傾注いただいております。このことは広く日本国民が自衛隊を信頼し、心から感謝をしているところでもあります。昨年9月の豪雨の際、茨城県常総市において、自衛隊員が取り残された住民とその家族の一員である飼い犬を救出する様子がテレビで放映され、多くの方々に感動を与えました。まさに人と動物の絆を国民に示し、動物愛護精神の高揚に貢献された行動に敬意を表し、本日、陸上自衛隊第12ヘリコプター隊の皆様方に感謝状を差し上げることにいたしました。隊員の皆様にはお忙しい中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

さて、私どもは日本獣医師会の理念のもとに人と動物の共通感染症対策を行ってまいりました。昨年の5月にスペインのマドリードで行われました世界獣医師会、世界医師会の共通感染症ワンヘルスにかかわる国際会議に続きまして、第2回目を本年11月10日、11日に北九州市で開催することとなりました。

昨年のマドリードの会議で私と日本医師会の横倉会長が講演をさせていただきましたが、その際、出席された40カ国以上の参加者からわが国に対する高い関心を寄せられました。そして、ぜひ2回目を日本で開催できないか、というオファーをいただきまして、日本医師会と協議をし、アジア地区獣医師会連合の了解を得て、わが国で開催するという運びになったところです。

本会議につきましては、福岡県及び北九州市からも全面的な支援をいただき、ノーベル賞受賞者の田中耕一先生の基調講演、そして、宇宙飛行士である毛利衛さんの公開シンポジウム、また、ガラ・ディナーでは、大宰府天満宮の雅楽等を演奏していただく予定です。さらに、最後には、日本で初めての開催である、このワンヘルス会議の福岡宣言を採択したいと考えているところです。

わが日本獣医師会及び日本医師会の活動を、アジアを初め世界各国にアピールする絶好の機会であると捉えており、本日ご出席の地方獣医師会及び関係者の皆様方の多数のご参加を心から期待しているところです。

また、おかげさまで地方獣医師会のご努力により、福岡県で福岡県医師会、福岡県獣医師会の地方協定が結ばれて以来、現在、39の地方会で協定を締結いただくことができました。すでに2地区での協定締結が予定されているところであり、47都道府県の中で41の地方における医師会との連携が整うこととなります。私といたしましてはぜひ、この11月の国際会議までに、47都道府県にこのネットワークの構築を期待しております。そして、狂犬病を初めとする、人と動物の共通感染症への取組みを訴えたいと考えている次第です。地方獣医師会の皆さん方のよりいっそうのご支援を心から重ねてお願い申し上げます。

われわれは、獣医師道の高揚、獣医学教育の充実、人と動物の共通感染症への対策、環境の保全、食の安全等、非常に多岐にわたる課題を抱えております。このような課題に対して、特別委員会、部会委員会を設置して、精力的に取り組んでおりますが、これからも日本獣医師会と地方獣医師会が表裏一体となり、同じ価値観、同じ目的意識を持って、これらの課題解決に邁進していきたいと思っております。どうぞこれからも皆様方のご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、われわれが抱えている課題、これはすべて政治的に大きなハードルをクリアしなければなりません。北村直人日本獣医師政治連盟委員長には、われわれ日本獣医師会と車の両輪となって、組織的な活動を行っていただいております。この場をお借りし、心から感謝を申し上げます。

本日の総会は、われわれのこれまで1年間の決算、そして、これから1年間の事業計画予算についてご審議を賜ります。いずれの項目もわれわれにとりまして重要な課題でありますので、皆様方の十分なお協議を賜りますことを心からお願い申し上げますとともに、実り多い総会になりますことを祈念申し上げ、日本獣医師会会長の挨拶とさせていただきますと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。